第98回 薬剤師国家試験問題検討委員会「病態・薬物治療」部会報告書

日　時　　平成25年5月11日(土) 13:30～16:45　　平成25年5月31日

場　所　　学校法人常翔学園大阪センター

出席者

私立大学	52校	63名
国公立大学	14校	14名
計	66校	77名

委員長名	河野武幸
所属大学名	摂南大学

1. 総合評価

より良い薬剤師国家試験とするために、次回に向けて下記のような改善が必要と考えています。

- 理論問題は「病態・薬物治療に関する一般的・標準的な知識」、実践問題は「提示された症例・患者個別の解釈と問題解決」を問う問題が望ましい。
- 第97回でも指摘したが、患者の状態を把握し、それから薬物治療を推察するなど、臨床症状から薬物治療までを総括的に問う問題が極めて少ない。特に実践問題の症例問題は、症例の背景や症状、検査、経過などの記載がほとんどないので、患者のイメージが伝わらず、一般的な理論問題の域を出ない。また、処方内容から病名を推測できれば解答できる問題もあり、提示された患者個別の病態、薬物治療を考える実践問題とはなっていない。
- 病態のみを問う問題が多く、治療まで行き着いていない。薬物治療（薬物名）が出てくる問題が少なく、病態から薬物治療へという流れを大切にする必要がある（必須、理論、実践）。
- POS等の情報に関する問題が1/3を占めたため、本来の病態や薬物治療についての問題が少ない。来年に向け改善が必要である。
- コアカリ、出題基準にも出ている疾病や内容ではあるが、薬剤師としての必須知識を問うのであれば、マイナーなものではなく主要な疾病や薬物についての出題が必要である。

【難易度】

- 難易度としてはおおむね適切であり、昨年よりも向上していると考えられる。
- 但し、正答率が極端に低い問題がある（問56, 186, 191, 192, 287, 298）。

【バランス】

- 情報に関する知識がこれからの薬剤師に必要であることは理解できるが、そのために本来出題されるべき薬物治療についての問題が少なくなっている。全体のバランスを考慮する必要がある（必須、理論、実践）。
- 出題される疾病に偏りが見られ、全体的なバランスを考慮する必要がある（必須、理論、実践）。例えば、呼吸器の問題が一題もない（理論）。
- 薬物治療に関しても、より主要で必須なものからの出題が必要である（理論、実践）。

2. 各項目の評価

1)「誤りがあると判断された問題」

実践　問301　潰瘍性大腸炎発症の喫煙リスクは一般には明確でないとされているが、過去の喫煙が発症を高めると言う報告（Am J Gastroenterol 107, 1399-1406, 2012)があるので、確認願いたい。

2)「問題の観点から不適切である問題」

必須　問63　作問上の考えとして、消去法で解かせるのは良くない。選択肢に工夫が必要と思われる。

必須　問65　肺炎であればより頻度の高い起因菌を選ぶべきでレジオネラでなくても良かった。

必須　問70　分野としては実務の方が相応しいと思われる。

理論　問192　選択肢の表現ないしは問う観点に問題がある。
・本検定法に限定する設問よりも、取り上げる題材を具体的にした方が良い。
・薬学における統計処理の本質を問う観点での設問が望まれる。

実践　問289　吸入薬に関する出題が複数あるため、出来れば、喘息の病態に関する主要な事項を問う設問も望ましいと思われる。

実践　問298　卒業時に知っていなければならない範疇からは逸脱している。
非劣勢を知っておくことは今後重要と思われるが、実務での出題が望ましい。

実践　問304　薬物治療分野と判断するか、薬剤分野と判断するかが曖昧。20大学近くが薬剤の分野が適切と判断している現状を考え、薬物治療として問う工夫が必要。

3)「問題・選択肢の表現が不適切である問題」

以下のコメントは、下線を付した記述が「不適切」、その他はより良い問題にしていただくための提案です。

必須　問56　心電図は身体所見と直結し、QT延長やST上昇等、薬物の副作用を理解するのに必須。正答率は低いが問題として取り上げることは適切。ただし、基準（mv, ms）を入れるべき。

必須　問58　ネフローゼの病態には幅があるため、「正しいのはどれか」ではなく、「最も適切なのはどれか」とする。また、<u>「まれ」という表記は曖昧</u>である。

必須　問59　選択肢3は「痛みは軽快する」あるいは「消失することがある」の方が良い。「尿管から膀胱に落下すると」に限定する。選択肢5は、「超音波検査は診断に有用である」とする。

必須　問61　問題文を、「クッシング症候群の病態に該当しないのはどれか」にする。

必須　問62　思考障害に伴って記銘力減退などが出現することがある。思考障害は認知機能の低下と混同されやすい。従って、思考障害→思考集中困難にするとよい。

必須　問65　<u>選択肢5は2つ以上の内容を聞いている。一選択肢に一つの内容とすべき。</u>

必須　問69　問題文を「新規医薬品開発の臨床試験における」に限定すれば成立する。
日常的な臨床の場での臨床研究として設定されたとすればいかがであろうか。選択肢5は他のものであるべきであった。

理論　問181　問題の表現が冗長である。理論問題であるので、直接的な表現で問題の意図を明確にするのが望ましい。現在の胃痛の訴え、ゲダルナートがその時点で効いているのかどうかなどが不明。また、正解とされるセトラキサートの作用において、<u>透析患者に必ずしも適しているかどうか疑問がある。</u>

理論　問182　<u>転送 → 搬入</u>
全体的な時間経過が曖昧で、5時間前の胸痛発症は混乱を及ぼす。→ 4時間前とかが望ましい。この状況下で、リドカイン塩酸塩の筋肉注射は不自然で適応もない。塩酸モルヒネの筋肉注射が現実的である。また、選択肢の表現が冗長である（特に選択肢2）。

理論　問183　再生不良性貧血の原因としてウイルス感染症よりも、薬剤性にした方が、薬剤師国家試験に相応しい。

理論　問184　選択肢3の表現”カントン”は、現在の薬学ではなじみが薄いが、現場では汎用されるものであり、今後薬学教育でも取り入れていく必要がある。問題で胆石症と限定しているので、選択肢の不要な表現は省いた方が良い（選択肢2：胆石があっても、選択肢3：胆石が）。

理論　問186　副甲状腺機能亢進症はまれな疾患ではあるが、腎不全、透析下で起こる病態なので、その面からの出題があってもよかったのでは。シナカルセトは一般病院ではほとんど使わない薬である。

理論　問187　筋原性、神経原性の区別という面では悪くない問題だが、遠位型ミオパチー，筋強直性ミオパチーは教えていない。国家試験に出るから教えなければならないのか、もっといい問い方はなかったか。

理論　問188　IgGの増加はあり得るので、適切と言えない（IgEの増加を問う方が素直）。タクロリムスが、剤型が違うとはいえ2つ並んでいるのはどうか。アトピー性皮膚炎の皮疹そのものについて問う問題、皮膚バリアの低下に対する対応などを問う問題やタクロリムス外用薬の使用上の注意などに関する問題があっても良かったのではないか。

理論　問189　副作用として重要な疾患であり，問題として取り上げることは適切。原因薬剤について問う選択肢があってもよかった。初期症状について問う選択肢があってもよかった。

理論　問190　抗リン脂質抗体症候群を独立して出題するよりも、SLEの一病態として出題すべきでは。

理論　問191　取り上げる題材としてはとても適切。しかし、選択肢1の「1週間」や選択肢2の「前日」などの経時的な内容を問うことや、選択肢3、4のような相反する内容をあげるよりも、プロトコールの考え方や症状・治療方針など本質を問う観点での設問が望まれる。

理論　問195　取り上げる題材としては適切。しかし、「新生児の特徴」として「～小さい」等の表現・設問は，比較対象（例：成人，高齢者？）を明確にしておく必要がある。「新生児の特徴」よりも「新生児の薬物動態に関する特徴」とした方が良かったのでは。

実践　問287　栄養に関する知識、理解を問う設問は現在は講義で扱うことは少ないが、今後重要となるので、栄養状態の把握に関する設問は必要と思われる。ただし、本設問は、症例の背景が明確でなく、必ずしもこの患者に関する設問となっていない。一般的な理論問題であり、実践問題（複合問題）としては工夫が必要と思われる。本問は栄養状態の測定に関する設問であり、薬剤師の関わる栄養管理としての問題としては適切とは言えない。トランスサイレチンはプレアルブミンの表記がよいのではと思われる。「上腕三頭筋の皮下脂肪厚」の表現も適切ではないと思われる。

実践　問289　なぜ、スペーサーを使わずに変更となったかなど、症例の設定が不自然、不明確な点がある。選択肢5の意図が分かりにくい（他の選択肢と比較し、異質な感じがする）。

実践　問290　症例の背景や症状、検査、経過などの記載がほとんどないので、患者のイメージが伝わらず、実践問題（複合問題）ではなく、一般的な理論問題にもなりうる。すなわち、処方内容から病名を推測できれば解答できる問題になっており、提示された患者個別の病態、薬物治療を考える複合問題とはなっていない（例：55歳の症例に関わらず、選択肢1では高齢者に関する設問になっているなど）。

実践　問293　単独でも成立する問題で実践問題（複合問題）としては、工夫が必要と思われる。臨床研究に関する複合問題は作りにくいと思われ、関節リウマチならば、症例を提示して、患者の病態や症候・症状を問う、あるいは、生物学的製剤を含め治療に関わる問題が望ましい。CCP抗体は重要なので、これを期に学習してほしいが、ガイドラインの変更は最近なので、学習していない学生もいる。

実践　問294　単独で理論問題（あるいは必須問題）としても成り立つ問題であり、提示された患者個別の病態・薬物治療を問う実践問題（複合問題）としては工夫が必要と思われる。症例がアナフィラキシーショックであるかが分れば答えられる問題であり、問題解決型の設問となっていない。薬剤師の急性期医療への対応が今後求められるので、救急対応についての設問が望ましい（例えば、気管内挿管、ステロイド投与、バイタル測定など）。

実践　問296　病気は特異的、聞いている内容は一般的（全般的に）であり、趣旨が分かりづらい。他の疾患との鑑別、急性疾患との違いを問うてはいかがか。

実践　問301　病態・薬物治療では、なるべく否定形でない方が良い。一般論として証明が難しい。

実践　問303　遺伝子多型を問うのか、FOLFOX6について問うのか、明確ではない。
大腸がんの症例で、遺伝子多型があるためFOLFOX6という治療法を選択したという根拠を問う、あるいは遺伝子多型の検査の必要性、プロトコルの変更などを問う、という形式ではいかがか？プロトコルを考えるうえで、遺伝子多型などの個人情報を加味する必要性を問うべき。国家試験が教育現場をいい方向に変えるような問題が必要。症例の提示方法が曖昧、不確かで状況の把握が難しい。素直に時系列で症例をきっちり提示することが必要（この場合、再発情報などしっかりとした情報を伝える）（症例問題全域にわたって）。さらに、医薬品の規格、剤形が実在のものかの確認が必要。

4)「複合性が不適切な問題」

複合性については、概ね良好と思われるが、「総合評価」にも記述したとおり、患者の状態を把握し、それから病態と薬物治療を推察するなど、臨床症状から薬物治療までを総括的に問う問題が殆ど無い。

5)「授業で触れていない問題」

別紙１参照

その他特記事項

- 全体的に薬物名が出てくる回数が少なく、病態から薬物治療へという流れを大切にする必要がある。
- 実務実習に左右される可能性がある問題もある。
- 必須問題の中には選択肢が長すぎるものがある。
- 実践問題（複合も含めて）については、国家試験が教育現場をいい方向に変えるような問題、即ち、提示された患者個別の病態、薬物治療を考える問題解決型の問題が必要と思われる。

3. 各問題の評価

別紙１のとおり

以　上

別紙1　　第98回薬剤師国家試験問題「病態・薬物治療」部会　評価表

	番号	誤り			適切性			表現			授業で教えて	
		ある	ない	無回答	不適切	適切	無回答	不適切	適切	無回答	いない	いる
必須問題	56	1	70	0	7	64	0	4	67	0	6	65
	57	0	71	0	2	69	0	1	70	0	4	67
	58	0	69	2	3	68	0	9	61	1	1	70
	59	2	68	1	4	66	1	13	56	2	8	63
	60	0	71	0	4	63	4	8	62	1	13	58
	61	1	70	0	1	69	1	2	68	1	3	68
	62	1	70	0	3	67	1	2	69	0	1	70
	63	1	69	1	1	69	1	1	70	0	1	70
	64	0	71	0	0	71	0	1	68	2	0	71
	65	0	71	0	2	68	1	6	65	0	5	66
	66	0	71	0	0	71	0	1	68	2	2	69
	67	0	70	1	4	65	2	3	67	1	15	56
	68	1	67	3	0	66	5	4	63	4	10	61
	69	0	70	0	1	68	1	1	67	2	8	62
	70	0	71	0	1	69	1	0	69	2	8	63
理論問題	181	1	68	2	7	58	6	5	62	4	16	55
	182	1	68	2	9	58	4	15	50	6	10	61
	183	0	70	1	1	68	2	2	67	2	6	65
	184	1	69	1	1	68	2	7	58	6	8	63
	185	0	71	0	1	68	2	1	69	1	7	64
	186	0	69	2	7	58	6	5	59	7	20	51
	187	0	71	0	13	52	6	3	61	7	20	51
	188	2	68	1	0	71	0	3	67	1	5	66
	189	0	70	1	3	65	3	6	62	3	9	62
	190	2	63	6	12	47	12	5	60	6	22	49
	191	1	65	5	4	61	6	6	60	5	16	55
	192	0	64	6	7	54	9	3	61	6	24	46
	193	0	63	7	2	58	10	1	63	6	19	51
	194	0	65	6	5	58	8	2	63	6	16	55
	195	0	71	0	3	64	4	1	65	5	12	59

複合問題

	番号	誤り			適切性			表現			複合性			授業で教えて	
		ある	ない	無回答	不適切	適切	無回答	不適切	適切	無回答	不適切	適切	無回答	いない	いる
実	286														
病	287	0	68	3	10	49	12	6	59	6	4	57	10	39	32
実	288														
病	289	0	71	0	1	69	1	6	64	1	1	67	3	7	64
病	290	0	71	0	3	65	3	3	68	0	2	63	6	4	67
実	291														
実	292														
病	293	0	68	3	5	61	5	2	66	3	2	59	10	12	59
病	294	0	71	0	0	71	0	3	68	0	1	65	5	6	65
実	295														
病	296	0	71	0	2	69	0	3	67	1	1	63	7	10	61
実	297														
病	298	1	60	10	10	49	12	7	49	15	1	57	13	27	44
実	299														
実	300														
病	301	1	69	1	8	58	5	4	66	1	3	62	6	16	55
実	302														
病	303	1	66	4	11	51	9	9	54	8	3	60	8	16	55
病	304	1	66	4	18	42	11	2	59	10	4	55	12	19	52
実	305														

(注)無回答:「わからない(判断できない)」を表す。また、数字は回答大学数である。